

アベレージ180をめざし、世界へ

ポウリング競技に出場する
松田雄大郎さん



九月二十二〜二十四日に愛知県で「スペシャルオリンピックピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知」が開催される。スペシャルオリンピックピックスとは、知的障害のある人たちにスポーツのトレーニングやその成果の発表の場を提供する国際組織である。今回の大会は、四年に一度行われる世界大会に向けた日本選手団選考も兼ねている。それに先立ち、八月十四日にミッドランドスクエアで記者会見が行われた。会場は時に歓声が起こるなど、温かい雰囲気だった。会見では「スペシャルオリンピックピックス日本」の理事長である有森裕子さんやドリムサポーター、スペシャルオリンピックピックスのアスリートの方のお話や、高校生が制作したカウンタダウンボードのお披露目が行われた。アスリートの松田雄大郎さんは、「ナショナルゲームは、全国のアスリートと競い合うことができるので、とても楽しみになっています。出場するポウリングでは、アベレージ180を目指し

たい。応援が僕たちアスリートの力になるので、たくさん応援して欲しい。」と語った。



カウンタダウンボードとその制作を行った名古屋市立工業高等学校の生徒たち

では、私たちはスペシャルオリンピックピックスを通して何を学ぶことができるのか。記者会見後に、有森さんに直接取材を行った。有森さんは終始笑顔で質問に答えて下さった。「現在の社会には、ノーマライゼーションの実現（障害者が健常者とされる人と同様の生活を当たり前に送れる社会にしておくこと）という課題があるが、私たちはどのようにそれと向き合ったら良いのか。」と質問したところ、有森さんは「障害者自身の障害ではなく、私たちの障害者に対する無知が障害となっていて、ノーマライゼーションを妨げている。私たちがもっと障害者について知り、思いやりや理解しようとする気

障害者について知る機会に

持ちを持って、ノーマライゼーションにつながる。今回のスペシャルオリンピックピックスを通して、多くの人に障害者を知ってもらおう事が大切だ。」と考えを語って下さった。



編集後記

今回の取材で松田さんのスペシャルオリンピックピックスに向けての言葉を聞き、熱い思いを感じた。また、大会に参加される多くのアスリートが存在を知ることができた。そのような方々の活躍が障害者を正しく理解する機会になれば、温かい社会になっていくのではないかと思った。

（聖霊高等学校三年 上田知宙）